

生きる力

SHINGON

特集

「生きる力」とお大師さま
安らかなる心に到る仏道修行／写経・写仏／

生きる力 SHINGON

Vol. 112



弘法大師 空海
ご誕生 1250年
令和5年(2023年)

真言宗智山派



福壽山 普光明寺

当里静寂の地なり

埼玉県新座市大和田の地は、征夷大將軍 坂上田村麻呂が東北から都への帰路に休息した場所と伝わり、古代から交通の要所であったといえます。鎌倉時代には、鎌倉殿の13人^{ひきよしかず}の一人、比企能員の所領につながる鎌倉道が整備され、江戸時代になると川越街道の宿場町としても賑わい人々が行き交いました。秋時雨に煙る鎌倉道を、往時の風景を想像しながら歩いていくと、大きな山門が目に見え込んできました。『新編武蔵風土記稿』に「其^{その}つくり、工にしてことに高し」と記される福壽山地蔵院 普光明寺の山門です。

享保年間（一七二六―一七三六）に建立された山門で、分厚い樫の鏡柱と冠木が二層の切妻屋根を支え、冠木の左右には鳳凰、中央欄間には透彫の桐の花が豪華な彫刻も見事です。一見してその重厚かつ壮麗な趣に圧倒されます。

山門をくぐると広い境内に真っ直ぐに延びた古い石畳の参道が、先ほどまで降っていた雨に濡れて輝き、参道の右手に広がる竹林の風情と相俟って清澄な雰囲気醸し出しています。竹林が外界を遮断してくれているからなのでしょう。境内に入ると外の喧騒から離れて、時を越えてきたかのような不思議な感じを抱きます。

——当里静寂の地なり。田村麻呂は大和田の地をそのように評したといえます。普光明寺の境内は今もその静謐を湛えているようです。



二層の屋根が目を引き普光明寺の山門。新座市の指定文化財であり、平成28年に屋根を中心に修復されました。奥に続く参道は千体地藏堂へと通じています。



智山寺院探訪スライドショー

掲載しきれなかった写真や見どころを動画で紹介しています

鎌倉殿の千体地蔵

参道の先にある中門をくぐると、千体地蔵堂と称される三間四方の朱塗りのお堂が姿を現します。三十三年に一度のご開帳のため、堂内を拝観することは叶いませんでしたが、にいむらりようゆう新村良雄住職に平成四年のご開帳の時に撮影された千体地蔵尊の写真を拝見させていただきました。

写真には、中台地蔵尊とよばれる蓮台に座る金色の地蔵尊と、その周囲に無数の小さなお地蔵さまが写っています。徳治二年（三〇七）に第四世隆賢りゅうけんによって記された普光明寺の縁起には、中台地蔵尊は大同元年（八〇六）、田村麻呂に寺の建立を願い出た十輪坊という僧に託した念持仏であり、中台地蔵尊を取り囲む千体地蔵は正治二年（二〇〇）、鎌倉二代將軍、源頼家が征夷大將軍の官位を受ける際に大願成就を祈り、運慶作の一千体の地蔵尊を奉納し本尊としたものと伝えられています。

先師覚印かくいんの布教

三十三年ごとにご開帳されてきました。「千体地蔵尊を生涯で三回拝むことのできた人は、極楽に往生できるとのいい伝えがあります」と良雄住職。今回の開帳は令和七年春。ご開帳に携わる役員さんの中には三回目を迎える人もいて、みなさん張り切って準備をされているそうです。

江戸時代の普光明寺は七ヶ寺の末寺を有した地域の中心寺院でした。江戸時代末期の先師覚印は、四国八十八ヶ所の遍路をはじめ、西国、坂東、秩父の百観音を巡礼された篤信の僧侶でもあり、普光明寺の住職だけでなく、同じ大和田地区にある氷川神社の別当もつとめ、熱心に地域の宗教文化を盛り上げました。現在も毎年七月末に行われている氷川神社の「はだか神輿」で渡御する大神輿は、地域の五穀豊穡と人々の無病息災を祈るために覚印の発案で造られたという記録が残っています。



- ①普光明寺本堂 昭和59年に新築されました。規模は旧本堂と変わらず、間口10間、奥行9間のたいへん大きく立派な本堂です。
- ②銅板葺の屋根の形が特徴的な千体地蔵堂。33年に1度ご開帳され、次回のご開帳は令和7年4月4日から6日までの3日間です。
- ③千体地蔵堂の前に建てられた先師覚印の供養塔。塔の上に安置された地蔵尊は、秘仏の中台地蔵尊と同じ御姿で彫られています。

残念ながら当初の尊像は宝治元年（二四七）に起こった火災によって失われてしまいましたが、焼失から間もなくして十四世紀前半には再興され、以来

覚印は布教にも熱心に取り組まれたようで、毎年八月に本堂に掛けられる地獄極楽図の二幅は、覚印が自ら筆をとって描いたものです。絵図に描かれる鬼たちの表情はどれもコミカルで可愛らしくも見えますが、絵図を見ると泣き出してしまうお子さまもいるそうです。

笹竜胆におもう

覚印の地獄絵が掛けられる本堂は昭和五十九年に落成されました。内陣には室町時代に造立された不動明王と二童子、そして両部曼荼羅が本尊として祀られています。内陣の格天井に描かれた笹竜胆の絵も色鮮やかです。笹竜胆は源氏の家紋。頼家公との所縁から普光明寺の寺紋として本堂建立の際に描かれたそうです。頼家公は十八歳で征夷大將軍

となつてからわずか数年で幕府内での権力争いの果てに、その座を追われ命を落とします。しかし頼家公が蒔かれた地藏信仰の種は、しっかりと根を張って花をつけ果実となり、普光明寺の歴史のなかで永遠に伝えられています。

「このお寺はこれからも竹林や木々の緑に触れたり、静けさを感じることのできる自然豊かな境内にしておきたいと思っています。この数十年で周囲は開発が進み、新しい住宅

や建物が立ち並ぶようになりましたが、このお寺には子供たちの遊び場になるような広い境内があり、老若男女問わず、ふとこのお寺に訪れて、地藏堂や本堂で手を合わせていらっしゃると思います。そうして日常の喧騒から少し離れて、そつと仏さまに手を合わせるだけでも信仰心は育まれると思うのです」と良雄住職は朗らかに話されます。副住職の浩平師も「このお寺に伝わる歴史や文化財を知っていただき、多くの方々を訪れるお寺になるようにしていけたら」と将来の展望を語られます。

令和七年春、千体地藏尊のご開帳が今からとても待ち遠しいです。

(智山教化センター所員／伊藤尚徳

撮影／清水健)



④⑤覚印自筆の地獄極楽絵の2幅。地獄の鬼たちはどこか可愛らしい表情です。中央に描かれる地藏尊も秘仏中台地藏尊と同じお姿です。

⑥本堂内陣。ご本尊さまは二童子を従える不動明王で、室町時代に建立されました。



⑦内陣の格天井に描かれた源氏の家紋、笹竜胆。この紋は、普光明寺の寺紋としても受け継がれています。

⑧⑨ご住職の新村良雄師と、副住職の新村浩平師。先師たちが地域に育んだ地藏信仰と、歴史ある普光明寺の法灯を守り伝えておられます。



ACCESS アクセス

福壽山 普光明寺

〒352-0004 埼玉県新座市大和田4丁目13-30

車：関越自動車道所沢ICから約10分

電車：JR武蔵野線新座駅から徒歩約15分

今日の法語
「有情」
うじょう

おがわ ぎりゅう
小川 義隆
(新潟県胎内市 乙寶寺)

有情

生きとし生けるものを有情といいます。その中でとりわけ人間は感情豊かで、愛情、同情、強情など心の状態を表す言葉の多さにもそれが表れています。

しかし心は御し難く、複雑な情を持つが故に苦悩が多いのもまた人間です。

情とは本来清く純粋な心のはたらきを指します。たとえばほんのわずかなことであっても、思いやりや優しさが相手に通じたときは何ともいえない嬉しさがあります。私はそういう人情が好きです。善き人間らしさを大切に養ってゆきたいものです。





「生きる力」とお大師さま

〳ご宝号から始まる仏さまへの祈り〵

安らかなる心に到る仏道修行〳写経・写仏〵

—それ仏法遙かにあらず

心中にしてすなわち近し

真如外にあらす

身を棄てて何んか求めん

仏の教え（さとりの世界）は、遙か遠くにあるものではない。私たち一人ひとりの心の中にすでに備わっていて、とても近いところにある。

真理は私たちの外部にあるのではない。自分のこの身体を捨てて、どこに求められるというのか。

この言葉は、弘法大師・空海（以下、お大師さま）が著した『般若心経秘鍵』という書物

にあるものです。大変に有名なお言葉ですから、すでにご存知の方もおいででしょう。続けて、

—迷悟、我に在れば

すなわち発心すれば すなわち到る

明暗他にあらざれば

すなわち信修すれば 忽ちに証す

迷いとか悟りというものは、自分自身の内部に存在するのだから、さとりを目指す心を起こせば、そこに到達できる。

明るい（さとり）か暗い（迷い）かはあくまで自分次第であり、仏の教えを信じ、実践すれば、たちどころに仏の世界が現れるのだ。

と述べておられます。私が初めてこの言葉に出会ったのは、総本山智積院での修行僧時代のことでしたが、「なるほど、即身成仏とはそういうことか」と感動させられたことを覚えていています。

さて、お大師さまが日本に「密教」をもたらした際、日本仏教界には一大センセーションが巻き起こりました。その大きな理由の一つは、「この身そのまま、誰でも仏になることができる」という「即身成仏」を説く教えであつたためです。お大師さま以前の仏教では「三劫成仏」といい、仏に成るためには永遠に近い時間が必要であるとされてきました。

一劫とは、数キロメートルから数十キロメートル四方の大きな岩があり、百年に一度、天女が空から舞い降りて、衣の裾で岩をなでる。ついにその岩がすり減ってなくなっても、一劫にも満たない。などという途方もない時間を指し、しかもそれが三度必要である、それだけの時間を修行にかけなければ仏にはなれない、というのが三劫成仏です。

そこに「即身成仏」を説く新仏教がもたらされたわけですから、それは大きな衝撃で

あったらどうことは容易に想像できません。

論理的には可能だが現実的には不可能である、とされてきた「成仏」について、はっきりと「できる！」とお大師さまはおっしゃっています。秘奥を窮めようと思えば果てしなく奥深い密教ですが、「即身成仏」へのヒントは身近なところにあります。今回は、そんな視点から「写経・写仏」を見てみましょう。

言葉だけの理解を超え、 全身で体得する

「この身このままで仏に成れる！」とはいえ、当然そこにはプロセスがあります。その修行法を「三密行」といいます。私たちの活動は「身体・言葉・心」の三つに集約されますが、この三つそれぞれに仏さまのお力をいただくながら、仏さまに近づき、ついには一体となって、さとの世界に向かう修行のことです。コロナ禍において「三密」という言葉がマイナスイメージを伴って大きく流行しましたが、それは別の機会に譲りましょう。

さて、私たち人間は「言葉」をとおして物事を理解しようとしています。しかし、お釈迦さまがおさとりになった真理とは、とても言葉だけで理解しきれるものではありません。言葉だけに頼ってしまえば、そのすべてを掴み

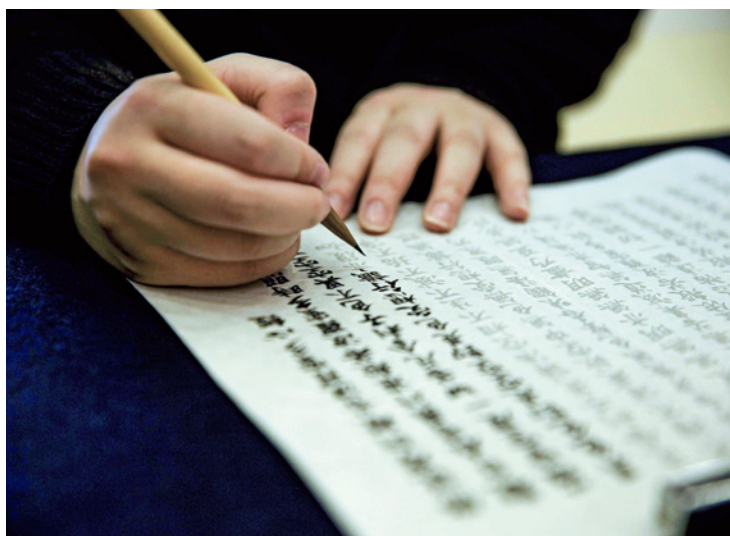
きるには「三劫」かかるといわれています。

一方、言葉による理解だけでは得られない真理を「体得」しよう、というのが三密行という修行です。次に述べる「写経」も「写仏」も、まさに「体験的な」仏道修行です。真摯な気持ちでこれらの修行に臨めば、言葉では表現できない「何か」すばらしいものをきつと体得できるでしょう。

「写す」ことは「さとりへの入り口」

写経も写仏も、「写す」修行です。経とは仏さまの教えですから、写経は「仏さまの教えを写す」修行です。一方写仏は、仏さまのお姿を写す修行です。仏さまのお姿には、その仏さまの誓願やはたらきが表されています。それは手の形（印相）や持ち物、あるいは表情などから窺い知ることができます。言葉だけでは理解しがたい深奥な教えを、そのお姿を写すことで具体的に体現しようというのが写仏修行です。

頭だけで理解しようとするのではなく、難しいことはわからなくてもまずは仏さまの教えに触れてみる。写経も写仏もそういう気持ちで構いません。深い教えに対する理解は、それぞれのペースで段々と深めていけばよいのです。とにかく「まず、やってみる」ということ。手を合わせ、心を調え、墨をする。そ



して、丁寧に一文字ずつ、一筆ずつ「写す」修行に臨んだならば、それはすでにさとりへの入り口ですから、安らかなる心に向かっているといえるのです。

写経・写仏をとおして 「生きる力」を育む

仏教には「功德」という言葉があります。さまざまに解釈されますが、「仏道を歩むこ

とで得られる素晴らしい恵み」といえばわかりやすいでしょうか。私たちはどんなことでも、結果や目的を求めてしまう生き物ですから、「とにかくやってみる」という一歩を踏み出すにも、「ではそれで何が得られるのか」と考えてしまいます。写仏も写経も、何が得られるか、いつ得られるか、は人それぞれで、実際にやってみないとなかなか感じられないものです。しかし、やってみる、続けてみると、何かを感じられる瞬間が必ず訪れます。先述のとおり、写経も写仏も「仏道を歩む修行」ですから、その実践には必ず功德があります。そのため、「供養」「祈願」「安らかな人生」などのために、写経や写仏を実践される方も多いようです。

さて、私たち真言宗智山派では、「生きる力——仏さまに祈り、仏さまと出会う」を旗印に、檀信徒の皆さまの積極的な活動を推奨しております。写経も写仏も、その活動に含まれます。皆さまにこれらの修行をおすすめする理由は、それが皆さまの「生きる力」につながるからです。生きる力といってもピンとこないかもしれませんね。「安らかなる心」「仏さまと共に生きているという実感」といえば伝わりやすいでしょうか。冒頭でお伝えしましたように、仏さまは私たちの内にすでにいらつしやいます。ということは、私も、あの人その人もみんな、実は仏さまなので

す。そうやって誰もが認め合い、互いに敬い合える世界こそ、私たちが目指すべき理想の世界なのかもしれません。少し話が逸れましたが、私たちは常に仏さまと共にあるということです。しかし、ただ漫然と人生を送るだけでは、なかなかそのことに気づけない。内なる仏さまを感じられたとき、そこには「生きる力」が生まれます。私たちは、そのための一つのきっかけとなることを期し、皆さまに写経や写仏をおすすめしているのです。

写経や写仏の具体例

最後に、写経や写仏の具体例を挙げます。写経として有名なのは『般若心経』ですが、その他にも多くの種類があり、短いもの

だと「十善戒」などの写経があります。さらに取り組みやすいものとして、「ご宝号（南無大師遍照金剛）」を写す修行があります。本年は、お大師さまご誕生千二百五十年の吉慶の年となりますので、お大師さまへの報恩謝徳の気持ちを込め、あるいは引き続きお見守りくださいという願いを胸に、挑戦してみてはいかがでしょうか。

写仏の一例として、私が修行僧時代に書写した「納経軸」中の写仏をご紹介します。

一年間の修行生活の中で、四国八十八ヶ所を遍路する修行がありました。私たち修行僧は、事前にお大師さまを写仏した納経軸を用意して、すべてのお寺をお参りしました。昨今流行りの「御朱印帳」も持ち運びには便利ですが、より手間と時間をかける納経軸も、



四国八十八ヶ所の納経軸。筆者が修行僧時代に中央のお大師さまを写仏しました。

目次

智山寺院探訪 福壽山普光明寺	2
今日の法語 (小川義隆)	5
特集 「生きる力」とお大師さま	6
お大師さまとご信仰 (田村宗英)	10
梵字よもやま話 (小峰智行)	11
図解・仏教ガイド	
「マンガでわかる十三仏⑩」(漫画・悟東あすか)	12
御詠歌を、聴いてみよう、見てみよう (平川真海)	14
日本の四季を切り取る十七文字 (星野高士)	15
総本山の便りをお知らせします	16
ニンゲンのつくり方 (中嶋亮順)	18
ごくらくらくご (三遊亭竜楽)	19
知っておきたい仏事 Q&A	20
読者アンケートから・おしらせ・編集後記	22
真言宗智山派出版物のご案内	23
僧侶と学ぶ仏像鑑賞の伊呂波 (池田英真)	24
十巻章一真言宗の教えを紐解くー (駒井信勝)	26
「ウェルビーイング」心豊かに生きる (渡邊淳司)	28
花に聞く 仏に聞く (佐々木隆元)	29
私のお大師さま	
ビジュアルで読む現代的性霊集 feat.Rieko (内藤理恵子)	30
十善戒と生きる力 (佐竹隆信)	31

成満の際の喜びはひとしおです。

以上、今回の記事をとおり、お大師さまの教えに触れ、また写経や写仏に少しでも興味関心を抱いていただければ幸いです。皆さまが常に仏さまと共にあり、安らかなる心にてお過ごしいただけることを心より願っております。

合掌

南無大師遍照金剛

(智山教化センター所員／平野隆光)



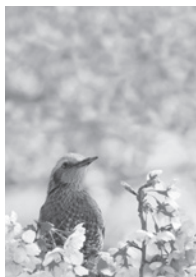
弘法大師 空海
ご誕生 1250年

令和5年(2023年)

宗祖弘法大師ご誕生1250年ロゴマーク

表紙

桜(サツマベニ)とヒヨドリ
長野県



ソメイヨシノより一足早く咲くサツマベニに鳥たちも歓喜の声を上げて訪れる。日溜りの中で凛とした佇まいに生命の躍動を感じる。賑わう花の森にパワーを与えられる貴重な時空間である。

P5

菜の花畑と環水平アーチ
長野県

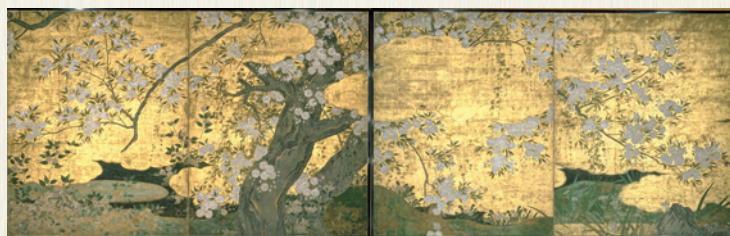


菜花の里、信州飯山は4月末から黄色一色に染まる。彼方まで続く花畑に環水平アーチ(逆さ虹)が出現。天気の変り目に多く見られる現象だが、自然の力の妙を感じざるを得ない。

撮影・解説／岡田光司

「智積院展示収蔵庫が新しく宝物館として生まれ変わります」

「総本山智積院 宝物館」は、
令和5年4月4日にオープン予定です。
国宝障壁画やこれまで公開していなかった
宝物の数々を展示いたしますので、
是非ご来館ください。



国宝障壁画
「桜図」

【お問い合わせ】

真言宗智山派
教化部展示収蔵課

TEL 075-532-5655

FAX 075-532-5656

京都 総本山智積院

〒605-0951 京都市東山区東大路七条下ル東瓦町964
TEL: 075-541-5361 FAX: 075-541-5364

写経のついで

毎月21日 13時より

於 智積院金堂地下ホール

(納経料千円・要事前申込定員50名)

智積院阿字観会

毎月12日

14時より受付13時30分より

※8月と12月は8日

於 智積院金堂地下ホール

(参加灯明料五百円・

要事前申込定員20名)

宿坊 智積院会館

一泊朝食付きプラン

8,300円から

(宿泊税・消費税込)

夕食別途3,300円から消費税込

ご予約・お問い合わせ

TEL 075-541-5363

・JR京都駅よりバス約10分

・京阪電車七条駅より徒歩約10分

※ご宿泊のご予約は、6ヶ月前の1日

より開始いたします。令和5年2月

現在、令和5年8月までのご予約を

受け付けております。

東京 総本山智積院別院 真福寺

〒105-0002 東京都港区愛宕1-3-8
TEL: 03-3431-1081 FAX: 03-3431-0203

愛宕薬師ご縁日(毎月8日)

※8日が土日祝の際は第一金曜日

・大護摩供法要 12時より

・写経会(納経料千円) 14時より

3月8日(水)

4月7日(金)

※花まつり灌仏会法要 11時30分より

5月8日(月)

やすらぎ寄席

毎月第3木曜日 18時30分より

於 本堂(木戸銭千五百円)

3月16日 談志一門会

4月20日 二遊亭

5月18日 談志一門会

真福寺阿字観会

15時より

於 本堂(無料・要事前申込)

3月28日(火)

※4月以降の開催日については

お問い合わせください。

Instagram



総本山智積院



宿坊智積院会館

Facebook



総本山智積院

※ご案内の行事は、新型コロナウイルス感染症の影響などにより、延期または中止となる可能性があります。参加を希望する際は、必ず、記載の連絡先へお問い合わせください。